

ICNND日本NGO連絡会 の取り組み

ICNND日本NGO連絡会は、国内NGO・個人がネットワークを組み、ICNNDや外務省への働きかけをおこなっています。これまでICNNDに対して2回の公開書簡を出すとともに、川口・エバンス議長との対話、公開セミナーなどをおこなってきました。

この2月のICNNDワシントン会合には、幅広い市民の支援を受けながら、被爆者を派遣し、被爆の実相を委員に伝えることもおこないました。

連絡会活動の詳細は、ホームページをぜひご覧ください。
<http://icnndngo-japan.wordpress.com/>

<連絡会は次のようなことを求めています>

- ①核兵器禁止条約を含む、
核兵器非合法化のための世界的な枠組み
- ②安全保障政策における核兵器の役割の縮小
- ③原子力の民生利用に対応する核不拡散のための新しい手立て

<ICNND日本NGO・市民連絡会>

共同代表 田中熙巳 (日本原水爆被害者団体協議会)
朝長万左男 (核兵器廃絶ナガサキ市民会議)
内藤雅義 (日本反核法律家協会)
森瀧春子 (核兵器廃絶をめざすヒロシマの会)

連絡先 223-0062 横浜市港北区日吉本町1-30-27-4
日吉グリーン1Fピースデポ気付
電話: 045-563-5101 FAX: 045-563-9907
Email: office@peacedepot.org

【10月イベント成功のためのカンパもお願いします!】

郵便振替口座: 00200-5-108274

加入者名「ICNND日本NGO連絡会」

(他行からのお振込の場合:)

ゆうちょ銀行 ○二九(ゼロニキュウ)店 当座0108274)

10月のICNND広島会合(10月17~20日)
は大きなチャンス!!

NGO・市民によるイベントが開催されます。

2010NPT
再検討会議
に向け、
10月広島へ!

○国際市民シンポジウム

核兵器のない世界へ—今こそ飛躍を!

～ヒロシマから、2010年ニューヨークへ～

日時: 10月18日(日) 14:00～17:00 (開場13:45)

場所: 世界平和記念聖堂

(広電「銀山町」「女学院前」電停から徒歩8分)

パネリスト:

レベッカ・ジョンソン(英アクロニム研究所所長)
ティルマン・ラフ (ICAN代表、ICNND・NGOアドバイザー)
田中熙巳 (日本被団協事務局長)
川崎哲 (ピースボート共同代表、ICNND・NGOアドバイザー)

コーディネーター:

森瀧春子(核兵器廃絶を求めヒロシマの会(HANWA)共同代表)

参加費: 1000円 (学生800円)

○キャンドルメッセージ **「NUCLEAR FREE」**

日時: 10月17日(土) 17:30～ (核なき世界を)

場所: 原爆ドーム前

「核なき世界」へのひとりひとりの想いを込めて、キャンドルで
「NUCLEAR FREE」の文字を描きます。
原爆ドーム前にお集まりください!

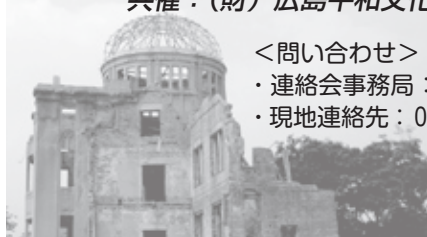
※17日15:00から、旧市民球場で広島市主催の
イベントが開かれます。併せてご参加ください!

主催: ICNND日本NGO連絡会+広島実行委員会

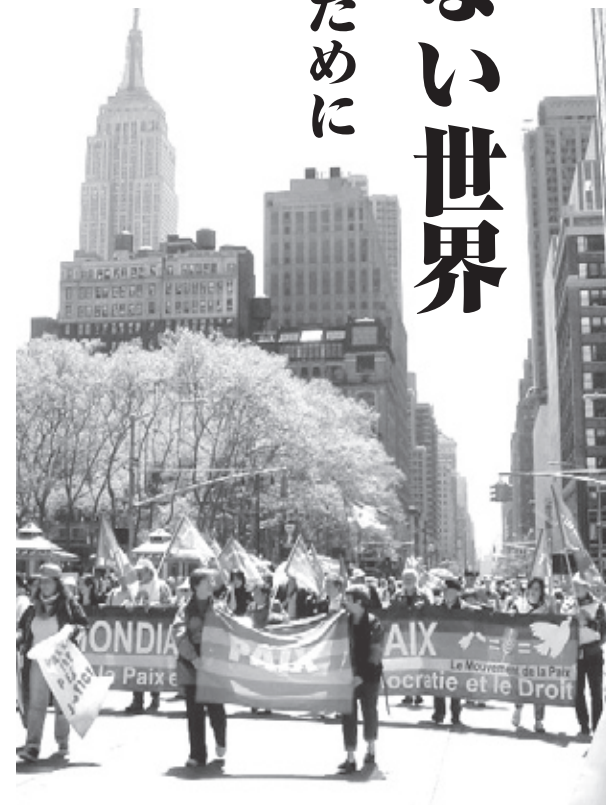
共催: (財) 広島平和文化センター

<問い合わせ>

- ・連絡会事務局: 左ページ下に記載
- ・現地連絡先: 090-9064-4705 (HANWA 森瀧)



核兵器のない世界 —その実現のために—



ICNND日本NGO連絡会
**ICNND
Japan
NGO
Network**

核不拡散・核軍縮に関する国際委員会(ICNND)
日本NGO・市民連絡会
(略称: ICNND日本NGO連絡会)
223-0062 横浜市港北区日吉本町1-30-27-4 日吉グリーン1F ピースデポ気付
TEL 045-563-5101 FAX 045-563-9907
e-mail office@peacedepot.org http://icnndngo-japan.wordpress.com/

日本政府の政策転換を実現させよう!

2009年
4月

チェコ・プラハにおいて、アメリカ合衆国・オバマ大統領は、「米国が核兵器のない平和で安全な世界を追求すると約束します。」と発言し大きな反響を呼びました。

この間米欧各国の元高官を始めとして世界各地のオピニオンリーダーが「核兵器のない世界」の必要性を繰り返しアピールしています。

核兵器が広島・長崎において初めて実戦に使用されてから64年、これまで核兵器使用の危機はありつつも、被爆者や市民の力により阻止してきました。しかし依然として核兵器は人々の平和を脅かし続けています。

こうした中、オバマ大統領らの相次ぐアピールは、単なる掛け声ではなく、これを実現させる大きなチャンスです。



(ホワイトハウスHP)

日本国内では、これまでも被爆者を始めとして、多くの人々が被害の実相を踏まえて核兵器廃絶を訴えてきました。これらの努力をついに実らせることができる大きなチャンスが訪れようとしています。

今、このチャンスに、「Yes We Can—実現させよう」という声とアクションを大きく広げようではありませんか。

明らかに なった日本政府の姿勢

2008年10月、日本政府とオーストラリア政府共同の呼びかけにより、ICNND(核不拡散・核軍縮に関する国際委員会。共同議長：川口順子元外相、ギャレス・エバンス元豪外相)が立ち上げられました。この動きも「核兵器のない世界」を目指す大きな潮流のひとつです。

日本のNGOはこれを好機ととらえ、委員会が核兵器廃絶に向けて現実的かつ具体的な道筋を明らかにするよう働きかけをおこなってきました。

この5月、エバンス共同議長が日本を訪れました。エバンス議長は、現在国際的に「核の傘の見直しなど、安全保障における核兵器の役割を減らす」という提案が出ているが、日本政府がこれに抵抗しており、「困ったことだ」と述べました。

エバンス共同議長



政策転換 ——核廃絶へのリーダーシップを!

実際、これまでの日本政府は、核兵器を最初に使わないという「先制不使用」の約束をアメリカがすることに、「日本の安全にとって好ましくない」と反対してきました。その理由としてあげられているのが北朝鮮や中国の「脅威」です。

ヒロシマ、ナガサキの被爆の体験を持つ国の政府が、核廃絶への第1歩となる「核兵器の役割の縮小」に反対する…これでは国民も国際社会も到底納得することはできません。

政権交代が実現した今、新政権がこれまでの政府の姿勢を改め、核兵器に依存しない安全保障政策へと舵を切るよう、働きかけましょう!

2010年
5月

NPT再検討会議へ

核兵器のない世界の実現をめざすためには、ICNNDに留まらず日本及び世界中の声を大きくしながら、2010年5月に開催されるNPT(核不拡散条約)再検討会議において、大きな一歩を記していくことが重要です。

そのためにも、後ろ向きな日本政府の姿勢を改めさせつつ、国内世論を大きく盛り上げていくことが求められます。

「Yes We Can—実現させよう」

一緒に歩みを進めましょう。



ICNND日本NGO連絡会・発足集会(2009年1月25日)

ICNND日本NGO連絡会
については裏面に

記者会見



ICNNDから 2010年NPT再検討会議へ